令 和 5 年 2 月 8 日
令和5年5月12日一部訂正
令和8年5月28日改訂
令和8年9月17日一部訂正
気 象 庁 大 気 海 洋 部

配信資料に関する仕様 No.11103

～線状降水帯の雨域（シェープファイル形式）～

1.データの内容

線状降水帯発生情報は、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って速報する情報です。令和３年より顕著な大雨に関する気象情報として、令和８年より気象防災速報（線状降水帯発生）として、実況、10 分先､20 分先､30 分先のいずれかにおいて発表基準を満たしたときに発表します。それにあわせ、実況から 30 分先までの予測における線状降水帯の雨域を示す楕円データを提供します。

・線状降水帯に関する各種情報の解説ページ
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/kishojoho_senjoukousuitai.html

2.ファイル形式

線状降水帯の雨域のファイル形式の概要は以下のとおりです。シェープファイルの形式はESRIジャパン株式会社の技術情報をご参照ください。

ファイル形式	シェープファイル（メイン・ファイル、インデックス・ファイル、属性ファイルで構成する。）
使用するシェープ・タイプ	Polygonのみ
属性ファイル	フィールドは、予測種別、解析日時、予報対象日時、楕円番号、対象地域数、一次細分区域コード、描画フラグの７要素。 フィールドの詳細については別添１を参照。
作成頻度	10分毎
ファイルサイズ	最大で約100KB（gzip圧縮前のサイズ。）

※ レコードのイメージを別添２にまとめます。
※ 本データ（線状降水帯の雨域）は Web メルカトル図法上で楕円に近似した多角形（polygon）です。
※ すべての領域において線状降水帯の雨域がない場合は、ファイル･ヘッダのみを配信します。
※ 本形式に沿って作成したデータは、GIS ソフトウェアの QGIS3.18.2 において正

常に表示できることを確認しています。

3. ファイル名

・線状降水帯の雨域

Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_Pslmcs_Fper10min_FH0000-0030_shape.tar.gz

次の三つのファイルが展開されます。

Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_Pslmcs_Fper10min_FH0000-0030_shape.shp
Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_Pslmcs_Fper10min_FH0000-0030_shape.shx
Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_Pslmcs_Fper10min_FH0000-0030_shape.dbf

※ Z と C の間にはアンダースコアが 2 個設定されている点に注意してください。その他のアンダースコアは 1 個です。yyyyMMddhhmmss はデータの年月日時分秒を UTC（協定世界時）で表します。

4. サンプルデータ

サンプルデータは（一財）気象業務支援センターに提供しておりますので、必要な場合は同センターへお問い合わせください。

5. 利用にあたっての留意事項

別添3を参照願います。

【改訂履歴】

○令和 8 年 5 月 28 日

属性ファイルに描画フラグを追加。

以上

別添１

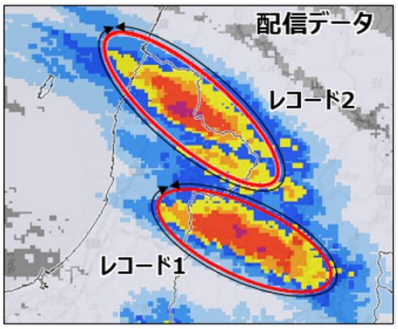
属性ファイルのフィールド

フィールド名	和名	フィールド型	フィールド長	とりうる値	説明
FCSTTYPE	予測種別	C	1	1桁の数値	1：実況で線状降水帯発生情報の発表基準を超過。 2：予測で線状降水帯発生情報の発表基準を超過。 3～9：予備
BASETIME	解析日時	C	12	12桁の数値	解析日時をUTC（協定世界時）で記載。 （例：令和４年８月３日17時30分（JST（日本標準時））は、202208030830）
VALIDTIME	予報対象日時	C	12	12桁の数値	予報対象日時をUTC（協定世界時）で記載。 （例：令和４年８月３日18時00分（JST（日本標準時））は、202208030900） FCSTTYPEが”1”の場合は解析日時となる。
ID	楕円番号	C	2	2桁の数値	線状降水帯の雨域毎に割り振られる番号。FCSTTYPE（予測種別）毎、BASETIME（解析日時）毎、VALIDTIME（予報対象日時）毎に”01”から順に割り振る。楕円領域の識別用IDとしての利用を想定している。このため、別のFCSTTYPE、別のBASETIME、別のVALIDTIMEにおいてIDの連続性・関係性はなく、同一IDであっても、FCSTTYPE、BASETIME、VALIDTIMEが異なれば、必ずしも同一の線状降水帯を表しているわけではないことに留意。
AREACOUNT	対象地域数	C	2	2桁の数値	対象とする線状降水帯の雨域において、線状降水帯発生情報の発表基準を超過した一次細分区域数。（例：01）
ICHIJICODE	一次細分区域コード	C	251	6桁の数値とコロン「：」の組み合わせ（251に満たない部分は半角空白でパディング）	対象となる一次細分区域。コードは、気象庁防災情報XMLフォーマット※の個別コード表に記載。（例：青森県の「津軽」は「020010」） 対象地域数だけ繰り返し、対象地域が複数の場合は一次細分区域コードはコロン「：」で接続する。
DRAWFLAG	描画フラグ	C	1	1桁の数値	1：予報対象日時が、一番解析日時に近い楕円。 0：上記以外の楕円。

※　気象庁防災情報XMLフォーマット　技術資料（https://xml.kishou.go.jp/tec_material.html）

別添２

表示する線状降水帯の雨域に対応するレコードのイメージ



メイン・ファイル
（~.shp）

Points
経度1　緯度1　経度2　緯度2…
経度1　緯度1　経度2　緯度2…

インデックス・ファイル
（~.shx）

オフセット
レコード1のオフセット
レコード2のオフセット

属性ファイル
（~.dbf）

FCSTTYPE （予測種別）	BASETIME （解析日時）	VALIDTIME （予測対象日時）	ID （楕円番号）	AREACOUNT （対象地域数）	ICHIJICODE （一時細分区域コード）	DRAWFLAG （描画フラグ）
1	202208030830	202208030830	01	01	150010	1
2	202208030830	202208030900	01	02	060020:150010	0

フィールド長251に満たない部分は、半角空白でパディング。

別添３

線状降水帯の雨域（楕円データ）の利用にあたっての留意事項

（１） 雨雲の画像に重ね合わせることで、どの雨域が気象防災速報（線状降水帯発生）の発表基準を満たすか分かりやすく伝えることを目的としており、大まかに楕円で表示しているものです。地図を拡大表示したときに、線状降水帯の雨域の位置を精度高く描画しているものと誤解されないように留意願います。

（２） 楕円の内側か外側かで、キキクルが示す危険度に違いはありません。また、気象防災速報（線状降水帯発生）の発表基準を下回り、楕円データの提供がなくなっても、その瞬間から安全になるわけではありません。断続的に提供されたりされなかったりすることもあります。

避難などの判断への利用やその解説にあたっては、提供される楕円データの、時間的・空間的な範囲を厳密に捉えすぎることなく、大雨による災害発生の危険度が高まっている地域や時間帯に着目することが重要です。

（３） 大雨に関する防災気象情報は、危険度の高まりに応じて段階的に発表されます。線状降水帯に関する情報だけを待つことなく、警報やキキクル等の警戒レベル相当情報を活用してください。